(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

	-1				
事業所番号	3873600450				
法人名	有限会社グループホームあまご				
事業所名	グループホームあまご				
所在地	愛媛県喜多郡内子町只海甲855-15				
自己評価作成日	平成24年12月26日				

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟

62 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

	評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
	所在地	松山市持田町三丁目8番15号
ĺ	訪問調査日	平成 25 年 1 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まず最初に、医療的には、事業所のすぐ近くに主治医が住んでいるので何かあれば直ぐに診察や処置の対応が出来るところです。生活においては、お一人お一人の意向や考え方、希望などに沿って、ご利用者様お一人お一人が気持ち良く、なるべく長く自立した生活が送れるようなサービスを提供しています。運営者や管理者、職員がこの地域に住んでおり地域交流や地域の方の協力が多く、地域に根ざしたホームになってきたと思います。職員は、ご利用者様の家族(娘や孫)のように日々の暮らしを共に行っています。また、ホーム内外での介護や認知症への研修に積極的に参加しています。終末期においては、ご家族様や主治医やその他の機関、職員が連携をとり、お一人お一人が尊厳を保ちながら最期を迎えれる看取り介護を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者や職員は地域の方が多いこともあり、特に地域との交流を大切にしている。代表者が医師であるため、日々の健康管理や健康相談を行ったり、AEDが設置されているなど医療面が充実しており、利用者と家族は安心感がある。利用者と家族とのつながりを大切に考えており、毎月「あまご便り」を発行し利用者一人ひとりの状況を報告している。管理者と職員は信頼関係が築かれており、サービス向上に向けて意見やアイディアを出し合ったり、ユニット毎に毎月の目標を決めて実践する等日々努力している。

|2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目	↓該	取り組みの成果 当する項目に〇印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の ○ 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	O 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が O 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	2. 利用者の2/3くらいか 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は その時々の状況や要望に応じた季軟	, 〇 1. ほぼ全ての利用者が				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が 介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を 修正することはありません。
- ※用語について
- ●家族等=家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。 (他に「家族」に限定する項目がある)
- ●運営者=事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の 役職者(経営者と同義)。
- ●職 員=「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- ●チーム=一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、 事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名グループホームあまご(コニット名)どじょっこ記入者(管理者)藤澤邦哉氏名藤澤邦哉評価完了日平成24 年 12 月 19 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

			【ゼル内の図1」は、「Altヤー」+「Enterヤー」です】	
自己評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ι.3	理念に	こ基づく運営		
1	1	○理念の共有と実践地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は、地域密着型サービスの理念と介護の基本的理念を合わせたもので、この理念を元にサービスの提供を展開している。玄関やリビングにこの理念を掲示している。 (外部評価) 「何事も決して急がず利用者のペースに合わせて行動する。会話を心がけ利用者が安心して生活できる環境作りに努める。地域とのふれあいを大切にする。」という理念を作成し、管理者の指導のもと理念にそった支援が行われている。利用者一人ひとりの生活を大切にした理念は事務所や廊下、リビングに掲示し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価) 地域の自治会行事に参加したり、地域の方にはなにかとあまごの事を気にして頂いている。利用者様、職員、この事業所の代表者、管理者はこの地域の住民である。 (外部評価) 代表者や管理者は事業所のある地区に居住しており地域との交流も深く、自治会長や区長、老人会長等との協力体制ができている。野菜のおすそ分けや苺狩り、柿採りの招待もある。町内のグループホーム合同の運動会に参加したり、小学校の学芸会の出演・観覧に行っている。代表者は隣地に高齢者が気軽に集まるサロンを開設するなど、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 内子町のグループホーム全体で共同で認知症講演会を開いて理解や支援を深める機会を作っている。地域の集まりなどで相談などがあれば、この事業所での実践や経験、学習を元に受け答えをしている。	

自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 一緒にお茶を飲んだり運動会や学芸会などに参加し直に利用者様と触れ合う機会を多く持っている、また、サービス状況を知っていただくために活動内容や当ホームでのサービス計画書作成の流れなどの報告を行った。 (外部評価) 運営推進会議は、2か月に1回、家族や自治会長、老人会長、いきいきサロン会長、農業委員、町職員等、多方面からの参加を得て開催している。レクリエーションや食事を共にし利用者の様子を見てもらい、町内のグループホーム合同の運動会や小学校の学芸会に同行してもらっている。看取りや介護計画、認知症について説明し事業所の取組みについて理解が得られるよう努めている。	会議では、事業所の取組みについて意見が少なく、職員に参加を促し、話しやすい工夫をするなど積極的な意見交換が行われるように期待したい。
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 担当者が必要な情報を当ホームにメールなどで知らせて頂いたり、月に1回開催しているGH連絡会に来ていただく機会を持っている。何でも不明な点は相談出来る関係にある。 (外部評価) 町の担当者には運営推進会議に毎回参加してもらっている。書類の提出等で役場を訪問したり、必要な情報をメールでもらう等、日頃から良好な関係を築いている。グループホーム連絡会が各事業所持ち回りで月に一回開催され、情報交換を行っている。	
6		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止マニュアルを掲示して理解をしているが、それ以前に、常にホームとして認知症のBPSDや行動・心理症状について学習、理解を行い、利用者様を拘束をしなくても済む環境づくりに努めている。 (外部評価) 身体拘束廃止マニュアルを作成し、職員は身体拘束をしないケアを正しく理解し取り組んでいる。個々の症状に合わせて対応を検討し、一人ひとりに合わせた声かけに努めている。外出を強く希望する利用者にはさりげなく声をかけてゆっくり話を聞き、ドライブで気分転換を図る等、拘束しなくてもよい環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業 所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所の職員になるにあたって、必ず高齢者虐待防止 について学んでもらっている。また、事業所内にも掲 示を行い防止に向けての啓発を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それら を活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所としては、学んだことのない職員に対しては個人的に事業所内外で学ぶ機会を作っている。必要性があれば応じるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な 説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には時間をかけ契約内容を十分に説明して理解・納得を得られるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員並びに外部者へ表せる機会を設け、それ らを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設けたり、普段の生活から、利用者からの直接の要望を尋ねて管理者や代表者に伝えるようにしている。また、面会や電話時に直接尋ねたり、面会簿に記入する欄を設けて家族からの要望も聞けるようにしている。 (外部評価) 運営推進会議や家族会等で、家族から意見を聞く機会を設けている。玄関に意見箱を設置したり、面会簿に記入欄を設け意見を出しやすい工夫をしている。面会者は多いが、利用者とゆっくり団らんできるよう雰囲気づくりにも努めている。	

○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員 見や提案を聞く機会を設け、反映させる	世でい 職員同士のコミュニケーションがよく取れており、管理者との信頼関係も築かれて、日常的に提案や相談ができている。毎月の全体会議に代表者と管理者が参加し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員の提案により、会計担当を決めて必要な物品購入を行う等、運営に活かされた事例もある。	
○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力を 績、勤務状況を把握し、給与水準、労 間、やりがいなど、各自が向上心を対 働けるよう職場環境・条件の整備に努	労働時 性が多いので、家庭環境に配慮した勤務体制をとって 持って いる。	
○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりの の実際と力量を把握し、法人内外の研 受ける機会の確保や、働きながらトロングしていくことを進めている	Fiffeを の向上のためにこまめに指導をしている。また、事業	
○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者とろ る機会をつくり、ネットワークづくり 強会、相互訪問等の活動を通じて、サ スの質を向上させていく取組みをして) や勉 演会などを合同で行って共にサービスの質の向上に向 ナービ はて努力している	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本 困っていること、不安なこと、要望等を傾けながら、本人の安心を確保する の関係づくりに努めている	等に耳は、環境の変化でのアレルギーを考えてまずは安心と	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査や、見学時の面談を通じご本人やご家族、それまでの担当ケアマネから情報収集を入念に行うと同時に、家族には、ご本に対してどのように暮らして欲しいか意向を伺ったり、不安などを聞くようにしてる。特に初期時は頻繁に連絡を取り合うようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 利用開始前や利用初期での情報収集をしっかりと行い、安心と共に暮らしの意向や、必要な介助を把握し支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者の得意なことや豊富な知識を把握し、能力が発揮できる場面作りに努めお互いが尊敬しあえて共に気持ちよく生活が出来るように取り組んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の面会や手紙、担当者会議への出席を依頼し一 緒になってご本人について考えて、ご家族からも可能 な限り支援をして頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 情報収集の時や日頃の会話の中で馴染みの場所や人を把握したり、その時の希望に応じて美容院やお店、歯科医院などを選択できるように支援している。通院などの外出時には自宅の前を通ったりしている。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から、馴染みの知人や行きつけの店、歯科医院等の関係を詳細に聞き取り、センター方式の書式にまとめて把握している。行きつけの美容室に行ったり、神社にお参りしたり、隣接のサロンで交流する等、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが 孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え 合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者が一同に集まる機会を設けみんなで一緒にレクリエーションを行ったりしているが、重度化しているご利用者が多いため今は利用者同士の関わり合いが少ない。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これ までの関係性を大切にしながら、必要に応 じて本人・家族の経過をフォローし、相談 や支援に努めている	(自己評価) サービスを利用していた方は地域の方なのでご本人や ご家族に会ったら話しをしている。退所をされても ホームを訪問する方も居る。	
I	Ⅱ. そ	の人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	(自己評価) 希望や意向をコミュニケーションから把握したり、困難な場合は何に困っているのか?やご本人の立場になるつもりで希望や意向を把握しサービスに反映させている。 (外部評価) 利用者との日々の関わりや、ふれあいタイムでの会話の中から聞き取り、希望や意向につながる言葉を支援経過に記録して全職員が共有している。聞き取りが困難な利用者には、日頃の様子から予測したり家族に確認して把握に努めている。またセンター方式の書式を利用して、暮らしの希望や思いを整理して介護計画にも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過 等の把握に努めている	(自己評価) ご本人とのコミュニケーションや家族様に依頼して、 ここに入所されるまでの生活についての情報を得てい る。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 集団での生活ではあるが、一人一人の生活のペースを 大切にしている。心身状態や有する能力や能力の変化 には日々注意を払っている。	

自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) サービス担当者会議を毎月開催している。家族、職員、管理者、施設長(主治医)、訪問看護st、の看護師、運営者などが参加している。今までは文章でのモニタリングをしていたが11月から数値による判定をするモニタリングも行い始めた。 (外部評価) 介護計画は、担当者が素案を作成し、全体会で職員が意見を出し合い計画作成担当者が作成している。毎月モニタリングを行い、日常生活の様子や身体状況を一枚のシートにまとめている。シートを基に3か月に1回、家族や医師、看護師、職員等で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 個別の記録を毎日行っている。記号や数字を使って実 践や結果などが分かり易いようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) で本人やご家族の希望があれば、主治医や訪問看護と連携して看取りを行っている。また、病院を退院され帰って来た方には引き続きリハビリが受けられるよう訪問リハビリのサービスを取り入れている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 地域のサロンに参加する人が居たり、地域の自治会、 小学校やボランティアなどを活用し社会との関わりが 断たれないように努めている。この町自体の認知症高 齢者への社会資源が乏しいのが残念である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時には、かかりつけ医の希望を伺うようにしている。事業運営者が医師で、当ホームに居ることが多いので変化があればいつでもすぐに適切な医療が受けられる体制がある。 (外部評価) 入居時にかかりつけ医の継続について相談し、利用者や家族の希望で医師である代表者をかかりつけ医としている。普段から健康管理に配慮し、緊急時の対応等、医療機関との協力体制もあり、適切な医療が受けられている。皮膚科等、専門医の通院介助は家族や職員が協力して行ない、受診結果を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 訪問看護ステーションとの契約があり、ちょっとした ことや、ケアにおける注意事項など、いつでも相談で きる体制にある。当ホームには、看護職はいない。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、病院に対して迅速に情報提供を行っている、入院中も病院側の相談員と管理者が連絡を取り合って情報交換や退院に向けての相談ができる関係である。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時には、必ず重度化や終末期に向けた指針を説明するようにしている。ご本人の現況や、これから先のことについても主治医を交えてご家族へ説明するようにしている。 (外部評価) 看取りに関する指針を作成し入居時に説明している。利用者や家族の希望に沿って、納得できる終末期を送れるよう支援に取り組んでいる。現在までに9名の看取りの経験がある。医師の指導のもと関係者が連携を図り、利用者と家族の希望を確認しながら支援に努めている。	

自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全て の職員は応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事業所で毎年、救命救急の講習を行い隊員の方に直接 指導や助言をしてもらっている。急変時の対応のマ ニュアルがありそれに沿って主治医への迅速な連絡や その後の報告などを行っている。	
35		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	(自己評価) 災害時におけるマニュアルがあり定期的に避難訓練を行っていて避難に際してはまず何が必要か理解している。利用者様の重度化が進み、ほとんどの方が自力で避難が出来ないのが不安である。管理者は地域の消防団員であり地域との連携も取れている。 (外部評価) 年2回、昼と夜間を想定して消防署の指導のもと避難訓練を実施している。緊急連絡網や避難経路、避難場所、防災器具の点検や確認を行っている。また土砂災害警戒区域に指定されているため、地域住民の協力を得た訓練も行っている。2日分の非常食を備蓄している。	
I	7. そ	Ⅰ ・の人らしい暮らしを続けるための日々の支持	 교 당	
	1.4	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 よなよりのよねな薄重し、************************************	(自己評価) 誇りや尊厳を傷つけるような不適切な言葉掛けをしないよう気をつけている。トイレ介助時やオムツ交換時にはなるべく素早くするようにしている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮している。特に、排泄時の声かけやトイレのドアの開閉等、羞恥心に気を付けている。入浴時に同性介助を希望する場合は希望に合わせて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表した り、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言語でのコミュニケーションが困難になっても、選択 的な問いかけを行い、うなずく等で自己決定ができる よう支援している。日常生活を一緒に送る中で常に利 用者様がどんな思いか何をして欲しいのか考えケアプ ランに反映出来るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その 日をどのように過ごしたいか、希望にそっ て支援している	(自己評価) 日課は、必要最低限で定めているが強制することはしていない。希望に応じて散歩に出たり休んでいただいたりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができ るように支援している	(自己評価) 汚れたままで過ごすことがないよう気を配っている。 散髪はホーム内でこまめに行っている。希望に応じて 美容院へ行く支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの食べる力を十分に把握してそれに応じた食事形態にして提供している。以前は、一緒に準備や片づけをしていたが、現在は、一緒に行えるのは一人の利用者様だけである。 (外部評価) 食事の献立は、協力病院の栄養士に確認してもらいながら立てている。利用者一人ひとりの状態に合わせて、きざみ食やとろみ食、一口大にする等の食事形態や量にしている。外食でスイーツを楽しんだり、誕生日には食べたいメニューを取り入れるなど工夫している。利用者のペースに合わせて食事介助をし、職員も一緒に会話を楽しみながらの食事時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養状態は、定期的に検査して把握している。検査結果に応じて栄養補助剤を利用している。食事量と水分量は毎日記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの力に応じた口腔内清潔介助を行ってい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活か して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけ た支援を行っている	(自己評価) 掴まり立ちが何秒か出来る間はトイレでの支援を行っている。また、その日の立位の状態に応じて二人介助で対応することもある。筋力がなくなり立位が取れなくならないよう日頃から運動訓練を行っている。排泄記録を毎日行っている。トイレでの排泄においてどの介助が必要なのか見極め過剰にならないよう支援している。 (外部評価) 身体状況に合わせてオムツを使用する方もいるが、できる限りトイレでの排泄を支援している。さりげない声かけでトイレ誘導しスムーズに気持ちのよい排泄が行えるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ た予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の記録を毎日付けている。便秘の原因や影響は理解できている。主治医と相談しながらこまめに内服薬の調整を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日 や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じ た入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回入浴の機会がある。その時その時に個々の希望に応じて入る時間を調整している。 (外部評価) 入浴は週3回を基本に支援している。浴室は広く両サイドから介助できるスペースがある。また、リフト浴を導入し状態に合わせて安全・安楽に入浴することができる。入浴剤を使用したり、その日の利用者の気分によって順番や声かけのタイミングに配慮し、一人ひとりが楽しく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく 眠れるよう支援している	(自己評価) 重度化に伴い体力が低下している利用者様が多くその時々の状況で昼寝を勧めたり職員が判断して居室へ誘導したりしている。夜間は、個室のエアコンをここの要望に応じたり職員が判断して使用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服 薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬はほとんどが一つの袋に入った状態で主治医から処方されていて一つ一つの薬の目的や副作用を理解できていない職員もいる。ほとんど毎日主治医がホームに来るので異常時や変化時には常に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支 援をしている	(自己評価) 一人ひとりの力に応じた役割を気持ちよく果たしていただけるよう支援している。生活歴に楽しみ事や趣味等があっても重度化が進んでいてそれに沿った支援が出来ない方もいる。	
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外 に出かけられるよう支援に努めている。ま た、普段は行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の人々と協力 しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候次第になるが散歩の支援は毎日している。また、花見や紅葉狩りなど季節に応じた外出を行っている。外来の帰りに自分の住んでいた地域に寄ったり、買い物や美容院などの希望があれば出来るだけその日に行けれるよう支援している。 (外部評価) 天気の良い日は事業所の周りを散歩したり、近くのお堂にお参りに出かけている。車いす使用者も気軽に外気に触れ気分転換ができるよう、玄関や事業所周りを散歩している。また、季節毎に普段行けない所へドライブに行っている。日常生活の中で、買い物や美容室に行きたいという希望があれば、個別に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを 理解しており、一人ひとりの希望や力に応 じて、お金を所持したり使えるように支援 している	(自己評価) 自分でお金を管理して、歯医者での治療費や買い物での会計をする方もいるが、重度化が進んでいて自分でお金を使える方が少ない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をした り、手紙のやり取りができるように支援を している	(自己評価) 電話や手紙は希望に応じて支援している。毎月、遠方の娘様に手紙を書いたり、希望する家族や親戚に年賀 状を出す方もいて家族様と連携をとりながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって 不快や混乱をまねくような刺激(音、光、 色、広さ、温度など)がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心地 よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に応じて草花を生けたり、壁の装飾を変えたりしている。また、冬・夏は一定の温度を保てるようエアコンを使用している。空間の明るさは、その時間間の状態に応じて照明を明るくしたり少し暗くしたりカーテンを閉めたりして調整している。臭いにも注意して消臭剤を吹き付けたりもしている。 (外部評価) 共用空間には季節の花を飾り、特に気温や湿度、明るさ、臭い等に気を付けている。リビングには2つの大きなテーブルとソファがあり、利用者と職員が一緒に作った作品が飾られ、日頃から口ずさむ歌詞を貼るなどしている。利用者はくつろいでゆったりと過ごしている。台所からリビング全体を見渡せて、利用者を見守ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせるよ うな居場所の工夫をしている	(自己評価) だいたいいつも同じ利用者が同じポジションで過ごしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族 と相談しながら、使い慣れたものや好みの ものを活かして、本人が居心地よく過ごせ るような工夫をしている	(自己評価) 生活感があふれていたり家族様の思いが伝わるような部屋であったり一人一人居室が個性的である。入所時には、出来るだけ新しいものではなく今まで使っていたものを持ち込んでいただくようお願いしている。 (外部評価) 居室には、ベッドや整理タンス、エアコンが備え付けられている。自宅から愛用していた家具等を持ち込み、家族の写真や趣味の物、誕生日にプレゼントされた寄せ書き等を飾り、落ち着いて過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつでき るだけ自立した生活が送れるように工夫し ている	(自己評価) センター方式のD1やD2を利用して生活でのいろんな場面での個々の能力が把握できるようにしている。 明るさの確保や急に廊下に遮へい物や床に物を置いたりしないようにして安全への環境確保に努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600450			
法人名	有限会社グループホームあまご			
事業所名	グループホームあまご			
所在地	愛媛県喜多郡内子町只海甲855-15			
自己評価作成日	平成24年12月26日			

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟

62 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

	評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
	所在地	松山市持田町三丁目8番15号
ĺ	訪問調査日	平成 25 年 1 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まず最初に、医療的には、事業所のすぐ近くに主治医が住んでいるので何かあれば直ぐに診察や処置の対応が出来るところです。生活においては、お一人お一人の意向や考え方、希望などに沿って、ご利用者様お一人お一人が気持ち良く、なるべく長く自立した生活が送れるようなサービスを提供しています。運営者や管理者、職員がこの地域に住んでおり地域交流や地域の方の協力が多く、地域に根ざしたホームになってきたと思います。職員は、ご利用者様の家族(娘や孫)のように日々の暮らしを共に行っています。また、ホーム内外での介護や認知症への研修に積極的に参加しています。終末期においては、ご家族様や主治医やその他の機関、職員が連携をとり、お一人お一人が尊厳を保ちながら最期を迎えれる看取り介護を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者や職員は地域の方が多いこともあり、特に地域との交流を大切にしている。代表者が医師であるため、日々の健康管理や健康相談を行ったり、AEDが設置されているなど医療面が充実しており、利用者と家族は安心感がある。利用者と家族とのつながりを大切に考えており、毎月「あまご便り」を発行し利用者一人ひとりの状況を報告している。管理者と職員は信頼関係が築かれており、サービス向上に向けて意見やアイディアを出し合ったり、ユニット毎に毎月の目標を決めて実践する等日々努力している。

▼. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

|2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

	項目 取り組みの成果					取り組みの成果
^ F		↓該当するものに○印				当する項目に〇印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	O 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
7	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 〇 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
3	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
)	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
0	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
1	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1 ほぼをての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
		4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が 介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を 修正することはありません。

※用語について

- ●家族等=家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。 (他に「家族」に限定する項目がある)
- ●運営者=事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の 役職者(経営者と同義)。
- ●職 員=「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- ●チーム=一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、 事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名グループホームあまご(コニット名)(ふなっこ)記入者(管理者)山本 由子氏 名山本 日子評価完了日平成24年12月26日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

			【ゼル内の図1」は、「Altヤー」+「Enterヤー」です】	
自己評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ι.3	理念に	こ基づく運営		
1	1	○理念の共有と実践地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は、地域密着型サービスの理念と介護の基本的理念を合わせたもので、この理念を元にサービスの提供を展開している。玄関やリビングにこの理念を掲示している。 (外部評価) 「何事も決して急がず利用者のペースに合わせて行動する。会話を心がけ利用者が安心して生活できる環境作りに努める。地域とのふれあいを大切にする。」という理念を作成し、管理者の指導のもと理念にそった支援が行われている。利用者一人ひとりの生活を大切にした理念は事務所や廊下、リビングに掲示し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価) 地域の自治会行事に参加したり、地域の方にはなにかとあまごの事を気にして頂いている。利用者様、職員、この事業所の代表者、管理者はこの地域の住民である。 (外部評価) 代表者や管理者は事業所のある地区に居住しており地域との交流も深く、自治会長や区長、老人会長等との協力体制ができている。野菜のおすそ分けや苺狩り、柿採りの招待もある。町内のグループホーム合同の運動会に参加したり、小学校の学芸会の出演・観覧に行っている。代表者は隣地に高齢者が気軽に集まるサロンを開設するなど、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 内子町のグループホーム全体で共同で認知症講演会を開いて理解や支援を深める機会を作っている。地域の集まりなどで相談などがあれば、この事業所での実践や経験、学習を元に受け答えをしている。	

自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	З	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 一緒にお茶を飲んだり運動会や学芸会などに参加し直に利用者様と触れ合う機会を多く持っている、また、サービス状況を知っていただくために活動内容や当ホームでのサービス計画書作成の流れなどの報告を行った。 (外部評価) 運営推進会議は、2か月に1回、家族や自治会長、老人会長、いきいきサロン会長、農業委員、町職員等、多方面からの参加を得て開催している。レクリエーションや食事を共にし利用者の様子を見てもらい、町内のグループホーム合同の運動会や小学校の学芸会に同行してもらっている。看取りや介護計画、認知症について説明し事業所の取組みについて理解が得られるよう努めている。	会議では、事業所の取組みについて意見が少なく、職員に参加を促し、話しやすい工夫をするなど積極的な意見交換が行われるように期待したい。
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 担当者が必要な情報を当ホームにメールなどで知らせて頂いたり、月に1回開催しているGH連絡会に来ていただく機会を持っている。何でも不明な点は相談出来る関係にある。 (外部評価) 町の担当者には運営推進会議に毎回参加してもらっている。書類の提出等で役場を訪問したり、必要な情報をメールでもらう等、日頃から良好な関係を築いている。グループホーム連絡会が各事業所持ち回りで月に一回開催され、情報交換を行っている。	
6		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止マニュアルを掲示して理解をしているが、それ以前に、常にホームとして認知症のBPSDや行動・心理症状について学習、理解を行い、利用者様を拘束をしなくても済む環境づくりに努めている。 (外部評価) 身体拘束廃止マニュアルを作成し、職員は身体拘束をしないケアを正しく理解し取り組んでいる。個々の症状に合わせて対応を検討し、一人ひとりに合わせた声かけに努めている。外出を強く希望する利用者にはさりげなく声をかけてゆっくり話を聞き、ドライブで気分転換を図る等、拘束しなくてもよい環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業 所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所の職員になるにあたって、必ず高齢者虐待防止 について学んでもらっている。また、事業所内にも掲 示を行い防止に向けての啓発を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それら を活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所としては、学んだことのない職員に対しては個人的に事業所内外で学ぶ機会を作っている。必要性があれば応じるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な 説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には時間をかけ契約内容を十分に説明して理解・納得を得られるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員並びに外部者へ表せる機会を設け、それ らを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設けたり、普段の生活から、利用者からの直接の要望を尋ねて管理者や代表者に伝えるようにしている。また、面会や電話時に直接尋ねたり、面会簿に記入する欄を設けて家族からの要望も聞けるようにしている。 (外部評価) 運営推進会議や家族会等で、家族から意見を聞く機会を設けている。玄関に意見箱を設置したり、面会簿に記入欄を設け意見を出しやすい工夫をしている。面会者は多いが、利用者とゆっくり団らんできるよう雰囲気づくりにも努めている。	

自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 施設長や管理者は、月に1回全体が集まる会議で運営に関する要望を職員に求めている。また、施設長や管理者、事業所の代表がホームにいることが多いので、いつでも気軽に職員が意見や提案を出来る。 (外部評価) 職員同士のコミュニケーションがよく取れており、管理者との信頼関係も築かれて、日常的に提案や相談ができている。毎月の全体会議に代表者と管理者が参加し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員の提案により、会計担当を決めて必要な物品購入を行う等、運営に活かされた事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は普段からホームでの勤務に入っているので職員個々の能力や努力を把握できている。家庭を持つ女性が多いので、家庭環境に配慮した勤務体制をとっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は普段からホームでの勤務に入っているので職員個々の実践状況やレベルを把握できていてケア能力の向上のためにこまめに指導をしている。また、事業所内外での研修を受ける機会を設けて、必要な職員には研修を働きかけている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内では、全グループホームが所属する内子町グルー プホーム連絡会があり毎月会議や勉強会、運動会や講 演会などを合同で行って共にサービスの質の向上に向 けて努力している。	
I	[.安/	心と信頼に向けた関係づくりと支援		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するため の関係づくりに努めている	(自己評価) 数多くの情報を得て本人が何に困っているか、何を求めているか、何を求めているかよく聞かせてもらいながら安心して生活出来るよう努力している	
			0.1	恶怒目某人污礼协议人 冠压钢木

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に見学してもらったり困っている事、不安なこと、要望等、何時でも何でも言ってもらえるような関係づくりに努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 一番に何を必要としているか、特に何に気をつけなければならないか情報を多く集め必要であれば他のサービスも含めて対応している	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) ホームは共に生活をする場であるととらえ、出来ることは一緒にしてもらいながら、職員も教えて頂き、お互いを尊重しながら支え合っています	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の存在が重要であることを理解しご本人の為に何をどうしたら良いか家族さんと相談したり、お願いしたりされたりの関係です	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 本人の希望の方面にドライブをしたり馴染みの店で買い物に行くこともある。たまに外泊される方もあるが「あまごが良い」と予定より早めに帰所される事が多い (外部評価) 入居時に利用者や家族から、馴染みの知人や行きつけの店、歯科医院等の関係を詳細に聞き取り、センター方式の書式にまとめて把握している。行きつけの美容室に行ったり、神社にお参りしたり、隣接のサロンで交流する等、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが 孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え 合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士支え合っていることもあるがぶつかり会いトラブルになることも多々あり、職員はどちらへも傷つけない様、仲に入ることに気を配るよう努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これ までの関係性を大切にしながら、必要に応 じて本人・家族の経過をフォローし、相談 や支援に努めている	(自己評価) 亡くなって退所の方が多いが、地域の方がほとんどな のでお会いすることがあれば話をしたりしている。 入院されたらお見舞いに便りがあれば返事出すように 努めている	
I	I. そ	の人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	(自己評価) 生活の中で本人の希望や思いを聞いたり見たり、その人の身になって思いや意向を考えて本人本位のサービスの提供を行っている。 (外部評価) 利用者との日々の関わりや、ふれあいタイムでの会話の中から聞き取り、希望や意向につながる言葉を支援経過に記録して全職員が共有している。聞き取りが困難な利用者には、日頃の様子から予測したり家族に確認して把握に努めている。またセンター方式の書式を利用して、暮らしの希望や思いを整理して介護計画にも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過 等の把握に努めている	(自己評価) 利用前の調査で詳しく聞き取りしたりセンター方式の 記入も家族さんにお願いしたり、又、生活の中で新し く発見した事など記録に残したり共有できるようにし ている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人に合わせたペースの中でよく観察し変化に気付く よう努め、それを記録し全職員が把握できる様にして いる	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) チーム(施設長(医師)、訪看、本人、家族、CW)で3ヶ月毎に担当者はもちろん他のCWも全員評価したのを持ちより、本人の為どうしたら良いか意見を出し合い作成している。また、毎月、モニタリングチェック表により担当者がサービスの提供状況等の確認も行っている。 (外部評価) 介護計画は、担当者が素案を作成し、全体会で職員が意見を出し合い計画作成担当者が作成している。毎月モニタリングを行い、日常生活の様子や身体状況を一枚のシートにまとめている。シートを基に3か月に1回、家族や医師、看護師、職員等で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 一日の行動はケース記録、他、水分と排泄、食事量、バイタルチェック、ふれあいタイム、入浴ノート等記録し職員間で情報を共有しケアプランに活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々に生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の往診や訪問看護、リハビリのサービスでかな り柔軟な支援は出来ている。その他、他科受診にも同 行している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 毎日のように近所を散歩している。御祓地域には、御大師様の88ヶ所めぐりと西国33カ所めぐりの行事もあり信仰のある方は近くのお堂をお参りしている。地元の小学校とも年数回は交流、地区のサロンにも何人かは参加したり、避難訓練の時は近所の方もらい一緒に消防署の方からの説明や研修も受ける。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 施設長が主治医で近所に住まれていて利用者も、職員も家族も安心、月一回は往診、それ以外も毎日のように顔を見られる歯科や眼科等は以前からのかかりつけに同行もしている (外部評価) 入居時にかかりつけ医の継続について相談し、利用者や家族の希望で医師である代表者をかかりつけ医としている。普段から健康管理に配慮し、緊急時の対応等、医療機関との協力体制もあり、適切な医療が受けられている。皮膚科等、専門医の通院介助は家族や職員が協力して行ない、受診結果を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 契約している訪問看護ステーションがあり、看護師の 方に担当者会議に参加して頂いたり研修をしてもらっ たりしている。何かとホームに来ることが多いので利 用者様の状態で気になることがあれば報告するように している。最低、月に1回はみんな健康チェックを受 けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は必要と思われる情報は細かく提供している。 お見舞いも時々は行き、話しが出来る時には病院側の 相談員と状況についての報告を受けたりしている。退 院時には、病院側の設けた話し合いの場に参加してい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用開始時に説明がされているが、重度化した場合、早めに家族に報告、終末期の段階に応じて話し合いで事業所でできることを説明しながら本人、家族の為にどうしてあげれるか方針を共有し、チームで支援している。 (外部評価) 看取りに関する指針を作成し入居時に説明している。利用者や家族の希望に沿って、納得できる終末期を送れるよう支援に取り組んでいる。現在までに9名の看取りの経験がある。医師の指導のもと関係者が連携を図り、利用者と家族の希望を確認しながら支援に努めている。	

自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全て の職員は応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時の対応のマニュアルが掲示されていて、その手順に沿って対応すれば良いようになっている。状態の悪い方に対しては、主治医への連絡基準が都度に指示されている。AEDも設置、救命救急の指導も定期的に受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	(自己評価) 災害に対してのマニュアルを設定している。地域の方と共同で避難訓練は定期的に実施。消防署の方から消火栓の扱い方等も教わった。 (外部評価) 年2回、昼と夜間を想定して消防署の指導のもと避難訓練を実施している。緊急連絡網や避難経路、避難場所、防災器具の点検や確認を行っている。また土砂災害警戒区域に指定されているため、地域住民の協力を得た訓練も行っている。2日分の非常食を備蓄している。。	
7	7. そ	の人らしい暮らしを続けるための日々の支持	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライ バシーを損ねない言葉かけや対応をしてい る	(自己評価) 家族のように共に生活する中でも尊厳や人権を大切にし、会話する時、その方の誇りやプライバシーを傷つけないよう言葉や対応に気を付けている (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮している。特に、排泄時の声かけやトイレのドアの開閉等、羞恥心に気を付けている。入浴時に同性介助を希望する場合は希望に合わせて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表した り、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の状態に応じて、選択したり自己決定が出来る問いかけをしたり、話しをよく聞きいたり態度やしぐさを観察している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その 日をどのように過ごしたいか、希望にそっ て支援している	(自己評価) 理念に基づきその方のペースを大事にしているが特別 早いペースの方には少し待ってもらうようお願いする ことあり	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができ るように支援している	(自己評価) 自分で着たい服を選んでもらったり、行きつけの美容 院へパーマかけに行ったりする方もある	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備や片づけも出来る人はしてもらう 職員も同じものを一緒に食べている 本人の誕生日には好物を献立に入れている 食べる話を皆ですると楽しそう (外部評価) 食事の献立は、協力病院の栄養士に確認してもらいながら立てている。利用者一人ひとりの状態に合わせて、きざみ食やとろみ食、一口大にする等の食事形態や量にしている。外食でスイーツを楽しんだり、誕生日には食べたいメニューを取り入れるなど工夫している。利用者のペースに合わせて食事介助をし、職員も一緒に会話を楽しみながらの食事時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食時の摂取量、水分の量も飲めた分を記録、食べやすい形態にしたり、粘り強く声かけたり、その方に必要と思われる量は摂取できるよう全員で取り組んでいる	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	(自己評価) 義歯を使っている人、いない人、ブラッシング出来る 人、できない人、その人に応じて声かけたり、付添っ たり介助したり全員毎食後にしてもらっている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活か して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけ た支援を行っている	(自己評価) 自立している人、声かけて誘導する人、訴える人、尿意便意が分からない人等、その人に応じた対応をしている 分からない方は夜間オムツ使用です。日中はトイレで排泄してもらっている (外部評価) 身体状況に合わせてオムツを使用する方もいるが、できる限りトイレでの排泄を支援している。さりげない声かけでトイレ誘導しスムーズに気持ちのよい排泄が行えるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ た予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の記録を個々に行っていて定期的にあるように主 治医と相談しながら下剤を使用したり、水分を多めに すすめたり、トイレでお腹に力を入れるようすすめて いる	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日 や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じ た入浴の支援をしている	(自己評価) 入りたい日や時間に合わせることは難しいが週に3回は入浴の機会を作っている。 順番は決めてないが、トラブルになるようなことはない 入浴ノートも作りその日の状態やどんな話したか等記入している (外部評価) 入浴は週3回を基本に支援している。浴室は広く両サイドから介助できるスペースがある。また、リフト浴を導入し状態に合わせて安全・安楽に入浴することができる。入浴剤を使用したり、その日の利用者の気分によって順番や声かけのタイミングに配慮し、一人ひとりが楽しく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく 眠れるよう支援している	(自己評価) 夕食後すぐ就寝する方もあれば、遅くまでテレビ見る人もある 体力や健康状態に応じて昼食後に昼寝もすすめたりしている 夜間錯覚してたまに歩いたりする人もある それが気になると苦情が出ることもある	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服 薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の事で分からない時は主治医に質問したり薬状を見て理解に努めている 内服に変更があった時は申し送り特に観察し気づいたことは報告するよう努めている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支 援をしている	(自己評価) 手伝いや散歩、歌やなぞなぞ、カルタ取り等、いろいろ気晴らしになることもあるが、たまには利用者同士トラブルになり仲に入ることもある	
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外 に出かけられるよう支援に努めている。ま た、普段は行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の人々と協力 しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は毎日のように散歩はしている 行事予定として外出を行う事もあるが、その日に何が したい、何が見たい等、意見や希望でドライブや買い 物に行くこともある (外部評価) 天気の良い日は事業所の周りを散歩したり、近くのお 堂にお参りに出かけている。車いす使用者も気軽に外 気に触れ気分転換ができるよう、玄関や事業所周りを 散歩している。また、季節毎に普段行けない所へドライブに行っている。日常生活の中で、買い物や美容室 に行きたいという希望があれば、個別に支援してい る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを 理解しており、一人ひとりの希望や力に応 じて、お金を所持したり使えるように支援 している	(自己評価) 管理できる方は所持されていて買い物している 出来ない方は、あずかっていてその時に持てもらった り、希望を聞いて介助している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をした り、手紙のやり取りができるように支援を している	(自己評価) 電話の希望があればかける介助、ご家族に用事がある 時等には、本人にもすすめて出てもらうこともある 最近手紙を書く方はあまりいない	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって 不快や混乱をまねくような刺激(音、光、 色、広さ、温度など)がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心地 よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感があるような掲示物、バリアフリーで静かな環境、夏場は窓に簾、テラスにゴーヤで緑のカーテン、ゴーヤは収穫して食材にしたりました (外部評価) 共用空間には季節の花を飾り、特に気温や湿度、明るさ、臭い等に気を付けている。リビングには2つの大きなテーブルとソファがあり、利用者と職員が一緒に作った作品が飾られ、日頃から口ずさむ歌詞を貼るなどしている。利用者はくつろいでゆったりと過ごしている。台所からリビング全体を見渡せて、利用者を見守ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせるよ うな居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関の外のベンチで外を眺めたり、屋内のソファーで気の合う同士でおしゃべりしたりリビングのソファーでウトウトしたりと思い思いの場所があるように見受ける	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族 と相談しながら、使い慣れたものや好みの ものを活かして、本人が居心地よく過ごせ るような工夫をしている	(自己評価) 入居時に家で使い慣れたものを持ち込んでいただくよう、依頼しているが、持ってきている人もあれば、そうでない人もある 居心地よく過ごせるよう、壁に好きな写真を貼ったりもしている (外部評価) 居室には、ベッドや整理タンス、エアコンが備え付けられている。自宅から愛用していた家具等を持ち込み、家族の写真や趣味の物、誕生日にプレゼントされた寄せ書き等を飾り、落ち着いて過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつでき るだけ自立した生活が送れるように工夫し ている	(自己評価) 建物はグループホームに適している それでも自室が分からない方、トイレが分からない方 のため、名前を見えやすいよう書いてつけたり、目印 をつけたり工夫している	